

令和 7 年 稲作情報 vol. 6

※この資料は、令和 7 年 7 月 11 日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部 Tel 0241-62-5262

南郷普及所 Tel 0241-72-2243

J A 会津よつば田島営農経済センター Tel 0241-63-1172

南郷営農経済センター Tel 0241-72-2554

下郷資材センター Tel 0241-69-1088

只見資材センター Tel 0241-84-2214

チェックポイント

- 1 穂ばらみ期～出穂期にかけて、湛水管理を行いましょう。
- 2 出穂期以降は、間断かんがいを行いましょう。また登熟期間中に高温が続く場合は、「昼間湛水—夜間落水」や「飽水管理」を行いましょう。
- 3 いもち病の病斑を見つけたら、直ちに防除を行いましょう。
- 4 斑点米カメムシの防除を行いましょう。薬剤防除は2回行うのが基本となります。

1 生育状況

(1) 生育状況 (7/15 現在)

幼穂形成期は概ね平年並となった。葉数は平年より進んでいる。草丈はやや長く、茎数は概ね少ない。葉色は平年並からやや濃い。

品種名 (場所)	幼穂形成期 (日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
里山のつぶ (下郷町)	7/11 (±0)	63.1 (106%)	648 (145%)	10.0 (+0.6)	43.5 (+0.8)
ひとめぼれ (南会津町)	7/11 (-1)	68.1 (115%)	436 (91%)	10.9 (+1.1)	37.4 (+3.1)
コシヒカリ (只見町)	7/14 (-2)	70.0 (103%)	428 (91%)	11.2 (+1.4)	31.9 (-4.2)

※ 括弧内は直近 5 か年における平均値 (平年値) との比較です。

(2) 1 か月予報 (7/19～8/18) 仙台管区气象台発表 (7/17)

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は高い確率 80% です。降水量は、平年並の確率 50% です。日照時間は、多い確率 50% です。

(3) 今後の生育について

幼穂形成期は概ね平年並となりましたが、高温が続くことが予想されていることから、出穂期は早まる可能性が高いです。

2 水管理 ～高温時には対策を～

令和5年は6～9月にかけて記録的な高温となり、玄米品質が低下しました。特に西部地域では、白未熟粒が増加するとされる出穂期後20日間の平均気温26℃を超えていたことが確認されました。

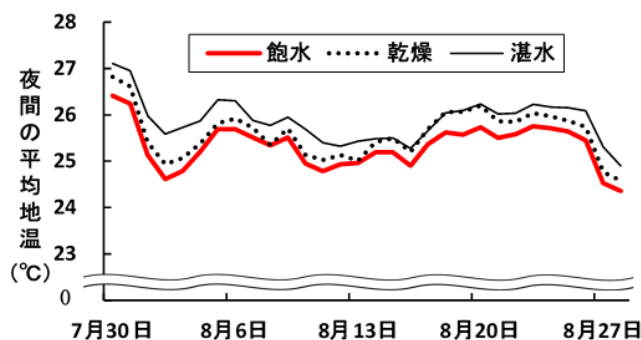
本年度も、記録的な高温により、出穂期後20日間の平均気温が26℃を超える恐れがあることから、玄米品質を低下させないためにも、水管理の徹底を行ってください。

(1) 穂ばらみ期～出穂(開花)期

- ・ 水不足は不稔を招くため、湛水管理とします。
- ・ 出穂直後に台風やフェーン現象に遭うと風や乾燥で、不稔や褐変粒が発生するので、深水管理を行いましょう。

(2) 登熟期

- ・ 間断かんがい(入水後、3～5日かけて自然落水させ、落水後に入水を繰り返すこと)を行いましょう。開花25日頃までは米粒が急激に大きくなるので、田面が白く乾かないように注意しましょう。
- ・ 登熟期間中に高温が続く場合は、「昼間湛水―夜間落水」や「飽水管理(田面は湿っており、溝、足跡に水が溜まっている状態)」を行い、水田の水温や地温を下げましょう。
- ・ 早期落水は、乳白粒等の発生による品質低下の要因となるので、落水は出穂後30日以降(9月上旬)を目安に行います。



水管理期間中の夜間平均地温の推移 (R5)
(令和5年度福島県農業総合センター参考成果)

足跡に水が溜まる程度



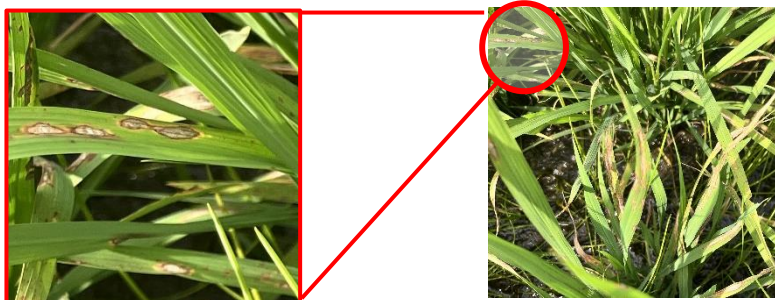
写真 飽水管理

3 いもち病防除

- ・ いもち病は梅雨時期の低温及び多雨、日照不足により発生しやすくなります。
- ・ ほ場をよく観察し、葉いもちを見つけたら治療剤で防除を行いましょう。
- ・ 特に上位葉(止葉や次葉)での病斑は穂いもちの感染源となりますので、上位葉で病斑を確認したら、徹底して防除を行いましょう。

治療剤例

薬剤名	使用時期	施用量 (kg/10a)	使用方法	本剤の 使用回数
ノンブラス粉剤 DL	収穫 7 日前まで	3 ～ 4	散布	2 回以内
ブラシンフロアブル	収穫 7 日前まで	1,000 倍希釈 60～150L	散布	2 回以内



葉いもちの病斑



発生予察情報
(防除所HP)

4 斑点米カメムシ類防除 ～7月16日 注意報発表 万全の対策を～

(1) 斑点米カメムシ類について

- ・ 斑点米カメムシ類は6～7月に高温が続くと増殖しやすく、イネの出穂とともに周囲の雑草から水田へ飛来します。1,000 粒に 2 粒斑点米があると 2 等に落等してしまいますので、適切な防除により斑点米の発生を防ぎましょう。
- ・ 割れ粳が発生すると、斑点米カメムシ類による被害が助長されます。7 月下旬の日照不足は割れ粳の発生を促すので、日照不足時は防除を適切に行ってください。
- ・ 南会津地域で多く発生が見られるのは、以下の 3 種です。

カスミカメムシ類		大型カメムシ類
 羽根に赤色の 太い縦条がある	 赤いヒゲがあり 胴体は細長の淡い緑色	 体色は 茶色
アカスジカスミカメ(4～6 mm) アカヒゲホソミドリカスミカメ(4～6 mm)		ホソハリカメムシ(約 1 cm)

(2) 耕種的防除(7月)

- ・ 斑点米カメムシ類の餌となるイネ科雑草が出穂する前に畦畔や周辺の草刈りを徹底して行いましょう。
- ・ 出穂以降の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田に追い込むので、出穂 10 日前までには終わらしましょう。その後は、稲の粳が固くなる出穂 3 週間後頃まで草刈りを行わないでください。

(3) 薬剤防除(8月)

- ・ 水稻が出穂すると斑点米カメムシ類は水田に侵入します。特に周囲と比べて出穂が早い水田は加害が集中しやすいので、注意しましょう。薬剤散布は2回行うのが基本となります。

【粉剤及び液剤(散布剤)の場合】

- ・ 1回目は乳熟期(出穂期の7～10日後、実を潰すと白い汁が出る時期)に散布します。その7日後に2回目の散布を行います。いずれも稲の穂にかかるように散布してください。

薬剤名	使用時期	使用量 (kg/10a)	本剤の使用回数
キラップ粉剤 DL	収穫 14 日前まで	3 ～ 4	2 回以内
スタークル粉剤 DL	収穫 7 日前まで	3	3 回以内
スタークル液剤 10	収穫 7 日前まで	1,000 倍希釈 60～150L	3 回以内

【粒剤(水面施用剤)の場合】

- ・ 穂揃期(出穂し、穂が揃う頃)に湛水状態の水田へ均一に散布し、その後7日間は止水管理します。その後、多発が予想される場合は、散布剤による2回目の防除を行います。
- ・ 大型カメムシ類には効果が劣ることがあります。

薬剤名	使用時期	使用量 (kg/10a)	本剤の使用回数
キラップ粒剤	収穫 14 日前まで	3	2 回以内
スタークル粒剤	収穫 7 日前まで	3	3 回以内

5 熱中症対策について

熱中症による死亡事故は7～8月に多く発生しています。熱中症を予防するために下記のポイントに注意して農作業を行いましょう。

- ・ 高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業を行いましょう。
 - ・ こまめな休憩と水分・塩分補給を行いましょう。
 - ・ 早期発見と早期の対処を行うため、単独での作業はできる限り避けましょう。
 - ・ 吸湿速乾性の服や空調服を着用するなど、熱中症対策アイテムを活用しましょう。
- 熱中症が疑われる場合は、下記のことを行いましょう。
- ・ 作業を直ちに中断しましょう。
 - ・ 涼しい場所へ移動し、衣服をゆるめ体を冷やしましょう。また水分や塩分を補給しましょう。
 - ・ 症状が改善しない場合は、医療機関で診療を受けましょう。

◎ 農薬危害防止運動(期間 6/10～9/10)

以下の注意点を確認し、安全かつ適正に農薬を使用しましょう。

- ・ 農薬使用前のラベルの確認及び農薬使用後の帳簿への記録
- ・ 適切な防護装備の着用の徹底
- ・ 誤飲を防ぐため、施錠による保管の徹底
- ・ 住宅地周辺で使用する際の周辺への配慮、飛散防止の徹底

次回発行は、9月上旬頃(適期収穫・乾燥調製について)を予定しています。